

清水高原(きよみずこうげん)歳時記(長野県道完走編)

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

# 第17集

(長野県道1号線~508号線)

NO.113 クレーター(御池山)としらびそ高原と下栗の里

(南アルプスエコーライン走破)

NO.114 信濃国は10州に境連ぬる国にして(岐阜県編)

NO.115 万座温泉から横手山経由で県道66号線(豊野南志賀線)を走る

(長野県道66号走破)(群馬県道/長野県道466号走破)

NO.116 孺恋村は多くの丘と広大な野菜農園が目につく大きな村

(群馬県道/長野県道112号走破)(長野県道180号走破)

NO.117 青鬼集落と白馬岳登山口(猿倉)まで

(長野県道322号)

NO.118 信濃10州に境連ぬる国にして(静岡県編)

(長野県道369号)

NO.119 浅間温泉周辺の県道を走る

(長野県道282号走破)(長野県道284号走破)(長野県道285号走破)

クレーター(御池山)としらびそ高原と下栗の里

澤田 繁 著

(南アルプスエコーライン走破)

三遠南信自動車の飯橋道路(飯田山本 IC~喬木 IC の 22.1km) の未開通部分(飯田上久堅・喬木富田 IC~喬木 IC までの 7.5km) の進捗状況を、喬木村のホームから「三遠南信通信」(2ヶ月に一度発行)を見て進み具合を楽しんでいる。以前は、浜松河川国道事務所のホームから「三遠道路・かわら版」を見て、鳳来峡 IC から東栄 IC の進捗状況を見ていたが、予定通り令和 7 年度には完成しそうになったので、今は見えない。

道路は、道・トンネル・橋の 3 種類が主になる。それぞれが設置場所によって、工法の違いがありおもしろい。氏乗 IC から喬木 IC 間は、場所が険しく、何か所もの工事用道路(県道 251 号線から)の建設と足場の建設に時間を費やしてい



た。中間的な進捗状況として、道は舗装完成・橋はなんらかの橋が渡る・トンネルは貫通をとすると、道は図にある区間が 2022 年 4 月に、橋は、1 号橋が 2021 年 3 月、(3 号橋がかけ始め)、6 号橋が 2024 年 9 月に、トンネルは、(2 号掘り始め)、(6 号が 55%)、11 号が 2022 年 9 月に貫通し、進んでいる。



2024.11.5 長野道・中央道・三遠南信道を通り、飯田上久堅喬木富田インターで降り、県道 83 号線から市道にはいり県道 251 号線(氏乗 IC 予定近く)に出た。そこまで工事用の道路の入口らしきはあったが、工事進捗状況は見られなかった。県道 251 号線を喬木インターまで工事進捗状況が見られるか期待して走ったが、6 号トンネルの貫通情報(455m の内 367m まで貫通)と完成した 8 号橋の橋脚一台と 10 号と 11 号トンネルの間のクレーン工事が見られた。



喬木インターに入るとすぐ「矢筈トンネル」になり、トンネルを抜けてすぐに右に入り大鹿村方面に向かった。登って行く山道を進むと、大鹿村としらびそ高原への分岐路があり右折した(大鹿村方面は通行止めでした)。旧上村の林



道を登っていく、紅葉がところどころ見え、道路脇は落ち葉の道を、くねくね曲がりながら進んだ。ようやく大きな建物の所に到着した。ここがしらびそ高原の基地のようだ。車を止めて、景色を眺めて、建物を見たがなにもなさそうでしたので、そのまま出発した。



しらびそ高原から下栗の里に向かいました。ここから下栗の里までが「南アルプスエコーライン」である。尾根または尾根に近い山腹を走る道で、南アルプスが見え隠れする道路であった。途中今日のメインの目的であるクレーターの場所で何度もクレーターの想像しながら、写真をとったが、わかりづらい。結局クレーターの中を走った事になった。ビューポイントから少し行った所に案内板があり、案内板の内容はく御池山隕石クレーターは、直径約 900m、2 万～3 万年前に直径約 45m の小惑星が衝突してできたものと推測されています。もともと急な斜面にクレーターが出来たために、浸食して崩れた部分が多く、残っている部分は約 40%ですが、御池山の尾根沿いに半円形の地形が残っ

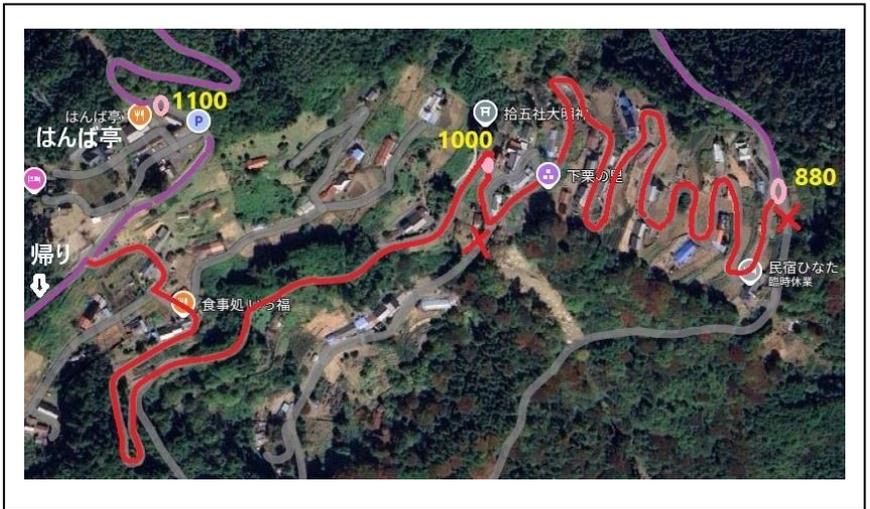
ている、日本初の自然科学遺産です。・・・>

しらびそ高原から下栗の里までは、下りの道で標高差 800m 以上を下った。まずは腹ごしらえとして、「はんば亭」に入った。手打ちそばと下栗芋（二度芋）の田楽を頼んだが、両方売り切れのため温かいそばにしました。

下栗の里は 2 度目になった



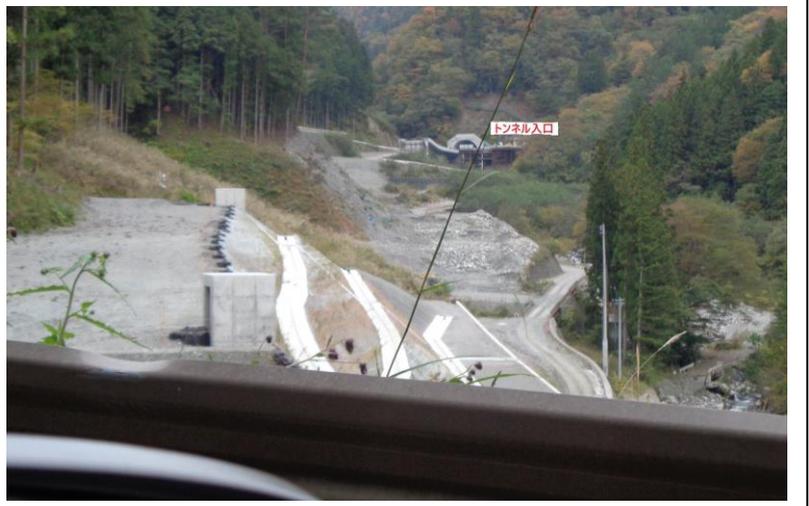
が、良く写真にある風景を撮るには、ビューポイントまで歩く必要があるのですが、前回も今回もその気になれなかった。代わりに、下までつづら折りの細い生活道路を迷惑かもしれないが、走って見ました。さすがに急傾斜とカーブのきつさに運転もびびりました。下まで降りたけれど、国道152号線にでる道が通行止めになっていたのので、遠回りしてはんば亭まで戻ることになりました。遠回りした先が「南アルプスエコーライン」の始点でもあった（南アルプスエコーライン走破）。



はんば亭から帰りの道を見つけ、国道152号線に出ました。南下し、道の駅遠山郷の横を通り、三遠南信自動車道の青崩トンネルの進捗状況を見に行きました。すでに、トンネルは貫通しており、完成までの工事が進められている。トンネルと遠山郷を結ぶ道路の進捗度が見る事が出来ればいいなと思い向かいました。



工事区間の「小嵐バイパス」に着きました。2022年9月の時と比べ、完成区間が増え、川底からのかさ上げも増え、前には見えなかった道筋が見えるようになっていた。ここで写真を撮り、この日は、国道418号線で天龍村に行き県道1号と県道244号線から国道151号線に出て、天竜峡インターから帰宅した。



2022.9.6 国道152号線行くと、工事車両以外通行止め（標高600m）になっていたのので、そこから県道369号線（南信濃みさくぼ水窪線）に迂回した。川沿いの152号線から山道に入る県道369号線は、曲がりの多い道であった。兵越峠（標高1165m）を越えると静岡県に入った（県道369号走破）。

路線では、県道369号線は、ここから名前をかえて、静岡県道412号になり、水窪の国道474号との交点までとある。実際は、浜松市道水窪白倉川線がつないでおり、曲がりの少ない下りの道を国道152号線まで行った。

この日は、静岡県ということで、まずは今まで通り過ぎていた「秋葉神社」に行きました。そのあと浜松浜北ICから新東名に乗り、途中音羽蒲郡ICおり、国道23号線を走り、名古屋から高速に乗り帰宅した。

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.11.7

信濃の国は10州に境連ぬる国にして(岐阜県編)

澤田 繁 著

埼玉・富山・山梨・愛知につづき5作目になる岐阜県を<飛騨><美濃>の2州を書きます。

飛騨(岐阜県)は、長野県境の北から高山市(上宝・丹生川・高根・朝日)、下呂市(小坂・下呂)と長野県境がない飛騨市・白川村で構成されている。一方長野県境は、北から大町市、松本市(安曇・奈川)、木曾町(開田・三岳)、王滝村になる。

- ① 【国道 158 (松本市～福井市)】 第5集の「NO.31」に一部掲載。松本市渚一丁目交差点(国道19号・143号。403号交点)から、福井市西方交差点(国道8号交点)に至る国道で、長野県境の安房トンネルが開通するまでは、県境の安房峠(国道158号)を越える道しかなかった。昔3回程越えた(結構きつかった)記憶がある。
- ② 【中部縦貫自動車道(松本市～福井市)】 第5集の「NO.31」に一部掲載。県境の安房トンネルは、1997年(平成9年)に開通した。冬季も通行できるようになった。現在全線開通に向けて工事が少しずつ行われている。
- ③ 【岐阜県道・長野県道5号線(乗鞍公園線)】【長野県道84号線(乗鞍岳線)】 5号線は、第5集の「NO.31」に掲載。84号線は、第15集の「NO.100」に掲載。県道5号線は、「昼平」手前で長野県に入り県境を少し走り岐阜県にまた戻り、長野県道84号線とは、県境で引き継ぐ形で終了となる。いずれも自家用車の通行は出来ない道路となっている(県道84号線は、乗鞍スキー場までは行ける)。



- ④ 【長野県道・岐阜県道39号線(奈川野麦高根線)】 第11集の「NO.71」に掲載。奈川(旧奈川村)の長野県道26号線の交点から野麦峠を越えて高根(旧高根村)のダム湖(高根乗鞍湖)の横に出る(国道361号交点)路線。
- ⑤ 【国道361号線(伊那市～高山市)】 国道361号線は、伊那市高遠の公園下交差点(国道152号線交点)から高山市の松之木町中交差点(国道158号交点)までの107kmの国道で、伊那市から権兵衛峠を越え、木曾を通り県境の長峰峠を越え、飛騨川に沿って高山市久々野町(旧久々野町)まで下る。北上し小山を越えて終点の国道158号線の交点に至る。

美濃（岐阜県）との県境は、岐阜県は北から中津川市（加子母・付知・川上<sup>かわうえ</sup>・坂下・山口・馬籠・上坂・中津川・阿木）・恵那市（上矢作町）であり、長野県は北から王滝村・大桑村・南木曾町（読書・田立・吾妻）・阿智村・平谷村・根羽村が県境になる。

- ⑥ 【岐阜県道/長野県道 486 号線（王滝加子母付知線）】 第 1 6 集の「NO.111」に掲載。中津川市付知町の国道 256 号線信号付知峡口から真弓峠（通行不可）を越え王滝村中心地の県道 256 号線までの路線。
- ⑦ 【岐阜県道/長野県道 6 号線（中津川田立線）】 第 3 集の「NO.20」に掲載。中津川市中津川の国道 19 号線との交点から中津川駅の付近を通り、木曾川の対岸に渡り、木曾川に沿って上流（右岸）に向かい坂下駅（岐阜県）から県境を越え、田立駅（長野県）の横を通り国道 19 号線と田立入口交差点で合流する路線。
- ⑧ 【国道 19 号線（長野市尾張部～名古屋市熱田）】・【国道 256 号線（岐阜市神田町～飯田市上村）】 県境付近の南木曾町妻籠交差点から中津川市山口地区の弥栄橋交差点まで両国道が重複しており、木曾川右岸の長野県から左岸の岐阜県に渡るしずも賤母大橋が県境になる。



- ⑨ 【岐阜県道/長野県道 7 号線（中津川南木曾線）】 第 3 集の「NO.20」に掲載。中津川市沖田交差点から落合宿と馬籠宿を通り、馬籠峠を越えて、南木曾町に入り、国道 256 号線と交わる路線。
- ⑩ 【中央自動車道（高井戸 IC～小牧 JCT）】 長野県からは、飯田山本 IC から園原 IC（名古屋方面からの乗降り専用）を通過し、恵那山トンネルのほぼ中程で岐阜県に入り、中津川 IC で降りる事が出来る。
- ⑪ 【国道 418 号線（福井県大野市～長野県飯田市南信濃）】 第 3 集の「NO.17」に掲載。長野県平谷村の国道 153 号線と国道 418 号線の交点から平谷川・上村川に沿って谷間の道を下る、岐阜県上矢作町の国道 257 号線交点で、しばらく国道 257 号線と重複して北上する。平谷川と上村川の合流点が県境。

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.11.12

万座温泉から横手山経由で県道66号線(豊野南志賀線)を走る 澤田 繁 著  
(長野県道66号走破)(群馬県道/長野県道466号走破)

2020.10.13 自宅を出て、安曇野インターから須坂長野東インターまで高速に乗り、須坂駅近くの「ちよか盛進堂」で菓子を買ひ、国道403号線の春木町交差点まで行き、ここから県道112号線(大前須坂線)に入りました。すぐ春木町南交差点で、県道54号線(第15集、NO.104)と一緒に、重複して東に進んだ。



高山村の高井地区に入り、扇状地の幅の広い部分(2km~3km)をしばらく走ると、徐々に狭くなって山に近づくて来た。牧地区に入り、一つ集落を過ぎた所に、県道112号線(右の谷)と県道66号線(左の谷)に向かう「信州高山あじさい道路」(2022.10.8に紅葉を見るついでに走った・あじさいの季節にはまだ来ていない)の分岐点があり、そこを直進して右の谷に入り、川沿いの道を登っていく、集落はもうなく、標高も分岐点の700m~1000m~1300m~1600m~1900mとぐいぐい登り、1900mを越えてすぐに県道466号線との交点に到達した。

県道112号線は、長野県と群馬県にまたがる県道で、長野県境付近から道がないような事が書いてあったので、ここから県道466号線に行くかどうか、迷ったが、少し県道112号線を先に行って見ようと思いました。県境近くまで走って、Uターンして、分岐点まで戻って来ました。

群馬県道/長野県道466号線(牧干俣線)を1km程進むと群馬県に入りました。尾根近くの標高1800mから1900mの景色の良い道を、万座温泉まで走りました。万座温泉は、散らばって温泉宿やホテルがあり広々とした感じがあつた。万座プリンスホテル(右写真)の前を過ぎてすぐに三差路に出る。右に行けば軽井沢・鬼押し出し・三原(浅間白根火山ルート)とあ



り、左は志賀高原・白根山とあった、県道 466 号線は、左折して白根山に向かった。三差路（標高 1750m）から白根山までは登りの道を進み、標高 2000m 弱の白根山を望む国道 292 号線との交点（県道 466 号線終点）に着いた（群馬県道/長野県道 466 号線走破）。

国道 192 号線（群馬県長野原町～新潟県妙高市）を長野県方面に向かった。白根山をぐるっとまわり、標高を上げていく、県境の尾根に着き、尾根道を走ると「日本国道最高地点碑」（標高 2172m）があり、横を通り過ぎて、県境の渋峠ホテルで少し休憩した。長野県側からは下りの道になり、スキー場が国道沿いに何か所かある。寒かった思い出のある「熊の湯スキー場」の横を通り、ほたる温泉・平床大噴泉から 200m 先が、この日のお目当ての県道 66 号線であった。



県道 66 号線（豊野南志賀公園線）は、山の内町<sup>ひらお</sup>平穩平床三差路から豊野町東町交差点までの 34km の路線である。平床三差路（標高 1640m）から 300m 弱登り、志賀高原のシンボリックな山である「笠ヶ岳」の横を通り高山村に入り、そこから「松川」に出会う（標高 1200m）まで一気に下った。途中に、昔バイクで来たことがある「山田牧場」（写真は山田牧場上から）が今でもあった。この路線、名前がついていて「湯つづき紅葉街道」といっている。特に、山田温泉までの松川溪谷の紅葉がいい。松川に出た後は、松川沿いを下っていった。

「雷滝」は、滝裏を通れる滝で、道より少し下った所にあった。滝の裏から滝を見たのは、初めての気がする。映画で、滝の裏に道がある想定はよく使われているので、滝をくぐるイメージも味わえた。

山田温泉に到着した。山田温泉は 800 年前に発見され、1798 年に現在の場所に引湯され、温泉街が形成されていった。共同浴場大湯の周辺に 9 軒の旅館が点在する。仏閣を思わせる外観の大湯は、温泉地のシンボルである。旅館の一つに、将棋の藤井聡太さんが 7 冠を達成した「藤井荘」があった。温泉街を少し戻ると山に登る道があり、昔なつかしい「山田温泉スキー場」を見に行った。現在は「山田温泉キッズスノーパーク」として運営しているようだ。



山田温泉を出発して、採石場が右手に見える所まで下って、松川を渡ると須坂市に

はいり、松川左岸を国道 403 号線との交点まで進んだ。国道 403 号線と重複して、松川を再び渡り小布施町に入り、松川橋北交差点を左折し、豊野町まで進む、小布施の栗畑を見、上信越道の下をくぐり、千曲川にかかる小布施橋を渡り、長野市豊野（旧豊野町）に入り、国道 18 号線をまたぎ、しなの鉄道豊野駅の近くの東町交差点に着いた（県道 66 号走破）。この日は、豊野駅前を通り、国道 18 号線に出て、千曲市に行き、姨捨スマートインターから帰宅した。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.11.12

嬭恋村は多くの丘と広大な野菜農場が目につく大きな村

澤田 繁 著

(群馬県道/長野県道 112号走破)(長野県道 180号線走破)

2024.11.12 自宅から三才山トンネルを通り、県道 65号線(第16集 NO.109)に、宮島交差点から国道 143号線、国道 18号線バイパス(上田坂城バイパス~上田バイパス)を通り、住吉交差点から国道 144号線(今日の往復に使うメインの国道)に到達した。



国道 144号線は、上田市の国道 18号線中央東交差点が起点の国道で、群馬県長野原町の羽根尾交差点まで、その交差点で、国道 144号・145号・146号線の3国道が交差する。

国道 144号線の旧道である県道 180号線(住吉上田線)は、2021年6月と8月にかけて走破した路線である。県道 180号線は、国道 18号線の中央5丁目交差点を起点に、上田城の外堀の役目もあつた「矢出沢川」に沿つての緩やかな登りの道

で、蛇沢大橋の下をくぐる形で住吉地区に入る。住吉地区に入つても、道脇の家並みが途切れない、上田菅平ICの取り付け道路の下をくぐるとすぐに国道 144号線の住吉北交差点につく(県道 180号線走破)。

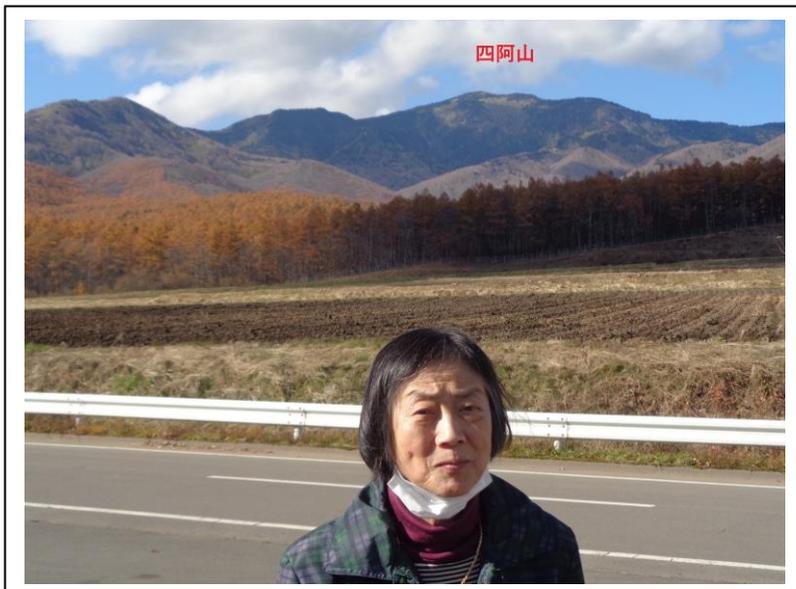
住吉交差点から国道 144号線を北上し、「ゆきむら夢工房」で休憩した。群馬県との県境の鳥居峠を越え嬭恋村に入った。この街道通称真田街道と呼ばれており、真田氏(真田幸村の祖父・幸隆、父・昌幸、兄・信之)が統治した地を結ぶ街道の通称。現在の国道 144号、145号、120号にあたる。江戸期には、上田市から嬭恋村を通つて高崎市方面へ抜ける街道(現在の国道 144号、406号)を上州街道(長野県側の呼称)、信州街道(群馬県側の呼称)と呼んでいた。

国道 144号線の鳥居峠からは、カーブの少ない緩やかな下りの道を走り、やや開けた所に着いた。最初に「つまごいパノラマラインの北ルート」を走る事にした。最初は四阿山の山麓を



走る、広大な農地が広がっている。裾野は、丘がいくつもいくつもある感じで、まだどこでも農地になりそうな地形であった。愛妻の丘（前頁写真）の駐車場で休憩した。野菜畑はもう収穫が終わり、唐松の紅葉がきれいでした。

愛妻の丘を出発して、北ルートを走ると、方向転換する三差路に着き、ここを右折し進む、干俣地区の中心地に入り、ここで県道 112 号線の群馬県側を探した。北ルートと県道 112 号線の交点に着き、北ルートを一時休止して群馬県道/長野県道 112 号線（大前須坂線）を走る事にした。まず、



始点の大前（国道 144 号交点）まで往復する事にした。なだらかな下りに道で、4km 程で工事中の信号のあった（普段は信号の無い交差点）三差路に着いた。一旦左折し国道 144 号線に出て U ターンして、北ルートとの交点まで戻り、さらに県道 112 号線を登って行った。干俣の集落を過ぎたら高原の登りの道になり、なだらかな登り道を進んだ。この道、リゾート開発に使う用に？ 2 車線の良い道であった。標高 1420m 地点まで登った所にゲートがありそれ以上は進めなく、ここで U ターンして、北ルートとの交点まで戻ってきました（県道 112 号走破）。

嬭恋村<sup>つまごいむら</sup>は、明治に 11 の村が一緒になり開村、地図にない袋倉村（東端）をはじめ、芦生田・今井・大笹・大前・門貝・鎌原・田代・西窪・干俣・三原村が該当する。戦後の 1951 年には、村歌「嬭恋村の歌」を制定した。広大な農地では、高原野菜の栽培が盛んで、長野県の川上村同様、農業機械も大型化しており、経済的にもかなり順調な村に見えた。面積は、山形村の約 14 倍であるが人口は変わらない、浅間山と四阿山と白根山の裾野は、いずれも緩やかな傾斜になっており、耕作地は無限にあるように見えた。

	嬭恋村	山形村	松本市	東京都港区	自分の市町村
面積 (km <sup>2</sup> )	337 km <sup>2</sup>	24 km <sup>2</sup> (1/14)	978 km <sup>2</sup>	20 km <sup>2</sup>	
人口 (人)	8,857	8,244	237,304	268,623	
人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	26	330	243	13,194	
一人面積	38049 m <sup>2</sup>	2911 m <sup>2</sup>	4121 m <sup>2</sup>	74 m <sup>2</sup>	

北ルートを再び走り、同様な山麓地帯がつづき、群馬県道 59 号線との交点に出た、ここで北ルートは終了となっていた。左折し県道 59 号線に入り、すぐに草津町に入った。久々なので草津温泉に「温泉饅頭」を買いに往復しました。北ルートとの交点まで戻って来て、さらに県道 59 号を国道 144 号線に向かい走り、途中探していた高原野菜の売り場（みやざき直売所）を発見、持っていたコンテナに白菜・聖護院大根・下仁田ねぎを買って詰め帰路に着いた。途中国道 144 号線を外れ、南ルートを通り、上田菅平 IC で高速に乗り帰宅した。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.11.19

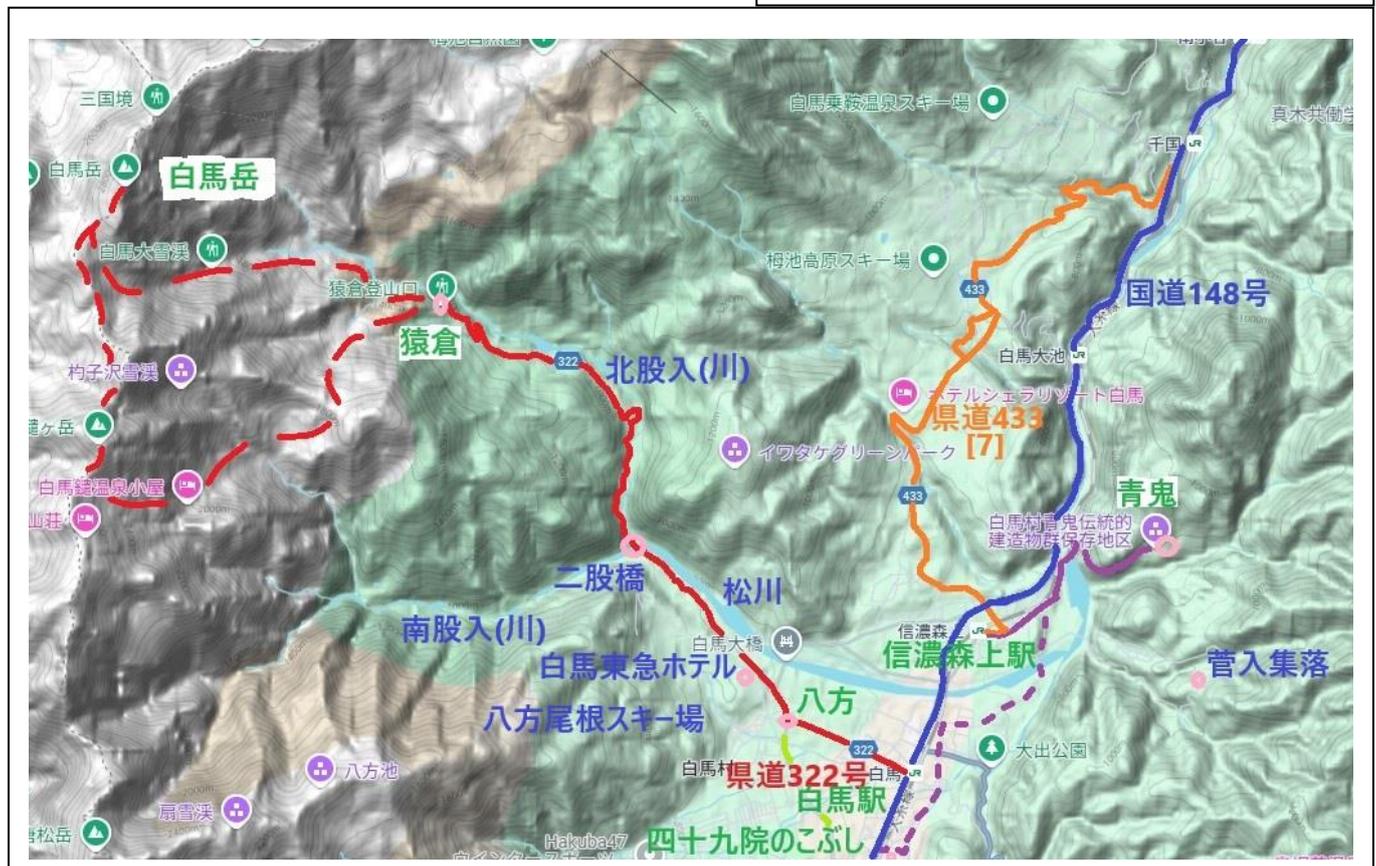
青鬼集落と白馬岳登山口(猿倉)まで

澤田 繁 著

(長野県道 322 号走破)

2024. 11. 19 自宅から県道 25 号と県道 278 号線で梓川小学校の信号を左折し、道の駅「アルプス安曇野ほりがねの里」前を通り、穂高有明の土場の信号で国道 147 号線に出た。大町市常盤の上一北交差点を左折し、大町市運動公園を通り、県道 306 号線から大町市街に入り、南原町交差点から左折して国道 147 号に再び出て、国道 148 号線とつなぎ、信濃森上駅に到着しました。

信濃森上駅は、県道 433 号線(千国北城線)の起点でもあり(第1集NO.7にて掲載)「青鬼集落」には、ここか



らスタートし、大糸線に沿って進み、姫川第二ダム下で姫川を越え、細い山道に入り、1.4 km程で、集落の入口に着いた。地元の人が苦勞して確保した駐車場があり、そこに車を止めて、集落を散策した。「雪の白馬と田んぼ」を目指していたが、雪は降ったが山は晴れず、上に広がる棚田の下まで行っただが、そこまですて帰ってきました。戻る途中の山道で、八方尾根スキー場方面を写真に撮りました。信濃森上駅手前を左折して、運が良ければ「菅入集落」(数軒の大型家屋が残る廃村)にいけるか

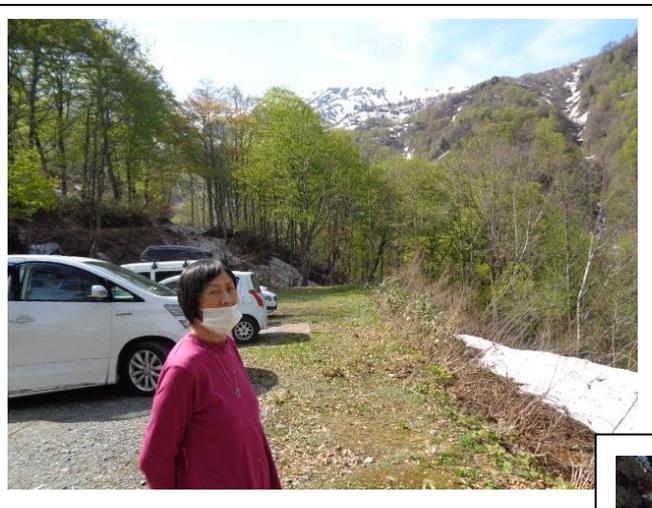
と思いましたが、松川大橋を渡ったのが失敗、水神宮橋を渡らなければいけなかった。そのまま村道を走り、「四十九院のこぼし」の場所で国道 148 号線に出た。この日は、白馬から県道 33 号・31 号を通り国道 19 号線に出て、信州新町の「むさしや」でジンギスカンを食べて帰りました。



2022. 5. 10 豊科近代美術館に立ち寄り友人の長田敬之<sup>おさだよしゆき</sup>さんの作品を見て、オリンピック道路でもある「北アルプスパノラマロード」を通り、高瀬川に沿って「蓮華大橋」まで登り、木崎湖で国道 148 号線に出た。青木湖のトンネルを抜けてから国道 148 号とは分かれ白馬方面に向かった。県道 33 号線と土合橋南交差点で一緒になり、国道 148 号線との立体交差を過ぎ、国道には出ないでそのまま進んだ。白馬ジャンプ台を見ながら県道 322 号線との交点の八方交差点に到着した。県道 322 号線（白馬岳線）は、終点が白馬山頂となっているが、車道は猿倉の登山口までとなっている。八方交差点からは、しばらく宿泊施設等がある所を走ると、松川の川沿いになる。



北股入(川)と南股入(川)が一緒になる二股にかかる二股橋(標高 820m)を渡り、白馬大雪溪より流れてくる北股入の川沿いに県道 322 号線は沿って登って行く、結構登った所が猿倉荘(標高 1220m)のある猿倉登山口であった。白馬岳(?)を写真に撮ってUターンをして宿泊施設のある所まで降りて来た。



県道 322 号線から離れ、一段上の道にある「白馬東急ホテル」を見に行ったら。このホテルは、私達が結婚した日(1973 年 4 月 1 日)の次の日に、兄からもらった「すずきフロンテ」にスキーを積んで泊まったホテルで昔と変わらなかった。この時はゴンドラに乗り、リーゼンコースを一気に滑り降りる若さがあった。



街中を通り八方交差点で県道 322 号線に戻り、そこから白馬駅前交差点まで走り、白馬駅で休憩した(県道 322 号走破)。この日は、国道 148 号線を北上し、糸魚川まで行き高速で能生インターまで行き「道の駅マリン ドリーム能生」で魚を買い名立谷浜インターから高速に乗り帰宅した。

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.11.30
信濃の国は10州に境連ぬる国にして(静岡県編)
(長野県道369号走破)

澤田 繁 著

埼玉・富山・山梨・愛知・岐阜につづき6作目になる
静岡県を<遠州><駿河>の2州を書きます。

遠州・駿河(静岡県)は、浜松市(水窪町)、川根本町、静岡市(葵区)と長野県側は、北側から、伊那市(旧長谷村)、大鹿村、飯田市上村、飯田市南信濃(木沢・和田・八重河田)・天龍村が県境となっている。

『駿河国』は、静岡県の大井川を挟んで、東側の国になる。長野県とは、自動車で行ける道はなく、登山道では行く事が出来るが、南アルプスを越えるため、かなりの時間を要する。

(イ)【大鹿村～赤石岳～榎島】第14集NO.94に掲載。

(ロ)【飯田市上村(芝沢ゲート)～蕪畑分岐～聖岳登山口】国道151号線→下栗の里→芝沢ゲート(駐車場)⇒(1:10)→易老渡⇒(1:15)→西沢渡⇒(4:50)→蕪畑分岐⇒(0:20)→聖平小屋⇒(1:10)→聖岳吊橋⇒(1:10)→聖岳登山口→(予約バス)ゲート沼平→静岡県道60号

(ハ)【飯田市上村(芝沢ゲート～易老岳～茶臼山～ゲート沼平】国道151号線→下栗の里→芝沢ゲート(駐車場)⇒(1:10)→易老渡⇒(4:45)→易老岳⇒(2:50)→茶臼岳⇒(2:10)→ウソッコ沢小屋⇒(2:05)→ゲート沼平→静岡県道60号

『遠州(遠江国)』は、静岡県の大井川を挟んで、西側の国になる。長野県との境には、川根本町と浜松市水窪町が接するが、川根本町に行く道路はない。同様に長野県がわも天龍村からの道路は、市道小和田水窪線の延長があるようだが、県道以上の道路はなく、飯田市南信濃八重河内からのみ県道以上の道路が静岡県につながる。



- ① 【長野県道369号線/静岡県道412号線(実質:浜松市道水窪白倉川線)(南信濃水窪線)】第17集NO.113に掲載。
- ② 【国道152号(上田市大屋～浜松市の国道1号線)】長いこと青崩れ峠は通れない国道。古くから塩の道でもあり、秋葉街道とも言われている。「遠山郷」には、800年つづく「霜月まつり」がある。
- ③ 【三遠南信自動車道(飯田市～浜松市浜名区引佐町)】約100kmの内、平成7年度に鳳来峡ICから東栄ICまで開通すると残りは36.5kmになる。

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.11.30

浅間温泉周辺の県道を走る

澤田 繁 著

(長野県道 282 号走破) (長野県道 284 号走破) (長野県道 285 号走破)

県道 282 号線(浅間川添線)は、美須々交差点(県道 282 号線起点)から「長野県護国神社」の前を通り、女鳥羽川を渡り浅間温泉に入る。下浅間・中浅間と温泉街を通り、次第に坂がきつくなっていき、坂の途中の旧ウェストンホテル前を通り、上浅間の温泉街に入る。浅間温泉は、職場の忘年会や母の米寿のお祝いとか大学の同級会とか何回ともなく利用して来た、40 年前頃までの職場忘年会(金曜日)などは、かならず渋滞が発生していたが、送迎バスをやめてからは、泊まりの忘年会事態も少なくなり、松本市内で行う事が多くなった。県道 282 号線は浅間温泉の奥にあたる所を走り、「日帰り温泉坂本の湯」手前までが終点?『認定告示のみで、区域決定の告示のされていない路線』とする(県道 282 号線走破)

浅間温泉には、松本駅から市電(チンチン電車)があった。1924 年~1964 年まで走っていた。松本駅前-国府町-本町-小池町-市民会館前-警察署前-学校前-一日の出町-清水-桜橋-元町-横田-自動車学校前-玄向寺口-運動場前-下浅間-中浅間-浅間温泉。学校前から浅間温泉までは、小学生高学年の時、美鈴湖でスケートをするため乗った。降りたら浅間温泉街を登り、バス道を歩き、途中から山道を登って、またバス道に出るコースで歩きが長かった記憶が今でもある。運動場前までも、高校野球見学や花見に家族で行った時に乗った記憶が



ある。

県道 284 号線(惣社岡田線)は、県道 67 号線の総社交差点から始まる。しばらく走ると、美ヶ原温泉に入る。美ヶ原温泉は、浅間温泉程広くはないが、結構多くの温泉旅館があった、泊まりの宴会もやった事がある。前は気軽に入れる銭湯があり良く入りに来た。現在は「白糸の湯」が今でも営業している。ここから山沿いの道になりテニスコートまで続く、途中に「松本山雅」の練習拠点になった「かりがねサッカー場」とか「玄向寺(ボタンを見に行った)」がある。テニスコート(20 面)横を通り、女鳥羽川を渡り右折し、川沿いを上流に向かって進む道になる。

右折しないで直進すると、現在は、文化ホールとか体育館があるエリアに入るが、以前は、テニスコートがあり、桜の名所でもあり、陸上競技場でもあった。中学時代（清水中学校）には、陸上クラスマッチ、市中陸上大会（リレー選手の補欠だった）、兄（高校 100m で北信越大会まで行った）の県大会等、社会人になってからは、テニス大会（水汲コート）での使用や会社のサークルでの使用などで大分お世話になった場所でした。

右折して、県道 282 号線と交点を直進し、旧国道 254 号線として、昔長い間 10m 程、道の拡張が出来ずに、狭いまの運用だったところを通り、原橋の信号まで進むと、現在のルートは結構



複雑で、そのまま北上するルートは、旧国道 254 号線である川沿い道を進み洞交差点で現在の国道 254 号線（東京都文京区～松本）に出る。現在の国道 254 号線は松本市街を通らず、1994 年に開通した松本トンネルを通り、平瀬口交差点で国道 19 号線と合流する。直進しないで左折するルートは、西に進み善光寺街道にぶつかる、ここで更に 2 ルートに分かれて、1 つは、そのまま西に旧岡田神社

の参道を進むと、岡田郵便局のそばの交差点で国道 143 号線（松本～青木峠～上田）と交わるルート。1 つは、善光寺街道の岡田神社旧参道前（写真）を右折し、善光寺街道を岡田宿まで進み、岡田宿のはずれ地点を左折して国道 143 号線まで行くルートになる（県道 284 号線走破）。

県道 285 号線（湯の原荒町線）は、県道 284 号線と県道 67 号線間を結んでいる県道である。道幅は広くはなく乗用車がようやくすれ違う事が出来る幅であった。畑は少し残るが、住宅街になっている。このあたりは里山辺地区となっており、1954 年までは里山辺村だった所で、西は旧松本、東は入山辺村に接していた。里山辺新井町から里山辺荒町に至る短い路線である（県道 285 号走破）。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>